

試験報告書

依頼者 株式会社 OLI Lab

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 「ラップラ②クン」 錆止め洗浄剤

表題 ウイルス不活化試験

2021 年 05 月 24 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

ウイルス不活化試験

1 依頼者

株式会社 O L I L a b

2 検 体

「ラップラ②クン」 錆止め洗浄剤

3 試験概要

検体を用いて調製した試料液にウイルス液を添加，混合し(以下「試験液」という。)，所定時間後に試験液中のウイルス感染価を測定した。また，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

4 試験結果

1) 予備試験(中和条件の確認)

細胞維持培地で試験液を希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また，使用細胞及び培地を表-2，試験条件を表-3に示した。

表-1 試験液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL		
		開始時	1分後	5分後
ネコカリシ ウイルス*1	検 体*2	—	<3.5	<3.5
	対照(精製水)	6.7	—	6.7

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

保存温度: 室温

<3.5: 検出せず

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈

*1 ノロウイルスの代替ウイルス

*2 精製水100 mLに対して検体5 gの割合で添加, 混合したもの

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	CRFK細胞[大日本製薬株式会社]
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]
細胞維持培地	2 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Feline calicivirus</i> F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
試料液	精製水100 mLに対して検体5 gの割合で添加, 混合したもの
試験液	試料液1 mLにウイルス液0.1 mLを添加
保存条件	1分, 5分(室温)
中和条件	細胞維持培地で1000倍希釈
対照	精製水
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法

以 上